

令和3年度 第1回伊東市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和3年12月13日（月）15:00～16:30
場 所 伊東市役所 8階中大会議室
出席者 委員11名、参与2名、事務局6名

開会

委員の紹介

教育長挨拶

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。保護者や教育関係者の皆様におかれましては、日頃から子ども・子育て施策へのご理解・ご協力並びに新型コロナウイルスへの感染拡大防止にご尽力いただき、ありがとうございます。

本市の新型コロナウイルス感染状況は、今のところ落ち着いた状態となっておりますが、これもひとえに本日お集まりの皆様方を始めとする関係者が、本市の未来を担う子どもたちをみんなで守っていくんだ、という思いの下で、ご努力いただいている賜物であると感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

さて、本市の少子化の波は加速度的に進んでいる状況でありまして令和2年度の年間出生数は222人となっております今年度の5歳児、年長さんの学年の325人から100人単位で減少しております。本日の子ども・子育て会議は、関係委員から広くご意見を聴き、本市のニーズに対応した子ども・子育て施策の展開を図っていくことを目的とした審議機関であります。特に本日は、今後の少子化の進展を見込んだ、公立幼稚園・保育園のあり方の一つとして、認定こども園を取り上げた議題となっております。本市では、認定こども園というテーマを議題で取り上げることは今まであまりなかったというように感じているところでありますが、今の時代のニーズに対応し、より良い子ども・子育て施策に繋がる第一歩となりますよう、皆様の活発なご審議をお願いし、私からのごあいさつとさせていただきます。

1 議題

(1) 副会長の選任について

※ 前任副会長の伊東市公立保育園園長会幹を引き継ぎ、玖須美保育園の委員が副会長に選任された。

(2) 子ども・子育て支援事業計画について

ア 令和3年度幼稚園・保育園入園状況について（資料①）

イ 令和2年度地域子ども・子育て支援事業の実施状況について（確定）（資料②）

(3) 公立幼稚園・保育園の再配置に向けた課題と解決策について（別冊資料）

※ 事務局より別冊資料を説明

会長 皆様にご意見を伺うところですが、トップバッターは指名させて頂きたいと思えます。現在伊東市で唯一認定こども園を運営している園長の立場から、事務局の提案に対し、認定こども園を運営されている中で感じているメリット・デメリット、そういったところの意見をまずご紹介していただければと思います。

委員 本年4月より幼保連携型認定こども園に移行し、利用定員80名から96名になりました。内訳は幼稚部の定員が22名、保育部は74名の96名です。

運営上のメリットとしては、認定こども園に対する事業者の理念や教育方針によるところが大変大きくなると思われれます。私どもはIT化の推進により保護者と職員の情報共有によるコミュニケーションの密度が上がったこと、また業務の効率化により子どもへの接触機会が増え、きめ細かな教育方針が可能となりました。またICT教材の導入により子どもたちの好奇心や興味が大きく変化しました。そのことに対しての保護者の子供に対する期待感や共生力が芽生えたように感じています。子供達が園での生活状況を家庭内で親にお話しすることが増えたことにより、親子のコミュニケーション機会が多くなったように感じます。

なお、デメリットとして幼稚部と保育部の教育保育の時間的ばらつきによる子供の精神的な不安定要素があるのではないかと危惧の念を持っておりましたが、それほど子供達、また職員に大きな問題となるようなケースは見られていません。

一方、新しい運営システムやICT教材の導入によって使い方などの勉強をしなければならなかったのですが、これは職員の努力により上手くこなされていると思えます。職員のモチベーションが高くなり、組織の活性化が見られるようになりました。また、今までなかった入園の案内や保育料の収受等の業務が発生し、事務的負担が増えたことがありますが、当園においてはソフトの導入などにより、さほど大きな影響は出ていません。

移行初年度であり、1年を通しての検証が出来ていないので、今後職員たちと話し合いながら教育・保育サービスの向上に努めていきたいと考えています。

最後に、伊東市の幼少人口の減少に伴う教育・保育施設の再編成は、喫緊の課題であると感じています。先行事例当事者としてご協力できればと思慮しております。また、ぜひ伊東市内の民間園の力もお使いいただきたいと願っております。

委員 父母の会連合会会長としてこの夏開催された全国保育園団体合同研究集会にオンラインで参加させていただきました。そこで私は「認定こども園の現状を踏まえた実践と課題」というテーマの分科会に参加させていただきました。保護者の立場として、認定こども園とは何だろうというところからのスタートでしたが、大学の非常勤講師をされていて全国の保育園を視察されている方の視察報告ですとか、認定こども園化した全国の保育園、幼稚園の園長先生達から色々な話を聞

くことができました。そこで上がっていた問題点をいくつかご紹介します。

先の資料にも出ていたのですけれど、保育時間や休日の違い、保育時間によって教室を移動する回数が増えることで起こる園児への負担などがあること。保護者の意識の違い、保護者会の運営主体の違いなども挙げられていました。その他、幼稚園は夏休みがありますが、保育園にはないので、園児の体力に大きく差が出ることから、運動会も最初は一緒に開催したが結局別々に開催することになったという事例や降園時間の違いから遠足は遠くへは行けない事例等、現場の声ならではの問題点を聞くことができましたが、他の自治体ではこれらの問題がありながらも運営されているようです。

参加して感じたこととしては、幼稚園教諭と保育士が対立関係になるのではなくて、子供にとっての最善策は何かということが一番に考えなくてはならないということです。認定こども園開園後の問題点は、保育現場や保護者に押し付けられる傾向にありますが、そうならない為にも、保護者の立場としてメリット・デメリットを共に学んで、みんなで考え活動していくことが必要だと感じました。

最後に、資料の中で気になった点を2点。事務局で戸田の認定こども園に視察に行かれましたが、全22人の園児の中で1号認定（幼稚園）は1人の園を何故視察先に選んだのかという点です。幼稚園児1人の保護者の意見がどれだけ参考になるのか。もう少し伊東市と同じ状況の施設を視察していただくと、さらに参考になったと思います。

また、資料には「幼稚園で行う幼児教育と保育を総合的に受けることができる」であったり「幼稚園はスキルや生活指導の側面・保育園は子どもの生活や情緒面」という表現で幼稚園と保育園が書き分けていますが、保育園では幼児教育はやっていないのでしょうか。私は保育園に子どもを預けていますが、ただ預けて生活しているだけではないと感じていますし、すごく色々なことを学んでいます。今後、認定こども園化を進める側がそういう考えで区分されているのであれば、先生方の中で衝突が生まれてしまうのではないかと感じていますので、まずそういう意識を変えていただきたいと思います。

最後に、「認定こども園とは何なのか」という保護者がほとんどなので、まず「伊東市ではこういうものを作ろうとしている」ということを明確にいただき、次に、現場で働いている先生方との意見交換ですとか、行事の時はどうするのかといったすり合わせの時間を多くとっていただいた方がいいのではないかと感じています。

会長 2点、事務局に対するご意見を賜りましたので事務局からお願いします。

事務局 戸田の認定こども園を視察先に選んだ理由としては、今年度に移行したというところが一番です。市の職員は何年かで異動しますので、例えば、移行した2年後に視察に行っても、当時の担当者からお話が聞けないことがよくあります。移

行に関して一番苦勞されたところ、工夫したところを生の声としてお聞ききしたかったという点と、コロナのこともあり近隣の自治体という点で沼津市を選定しました。

また、事務局では「幼稚園は教育、保育園は保育」と棲み分けて考えていることは決してなく、資料も「一般的にはこう言われている」という記載になっております。事務局としては、幼稚園・保育園のそれぞれが良さを持っていて、これまで培ってきた特色を相互に高めた提供をしていくということが一番の目的だと思っております。

委員 幼稚園と保育園の違いもよく分からず会議に臨みましたが、認定こども園のメリットを聞いてみて、なるほどと思うところもある一方で、このメリットとは、今足りないこととのギャップなのだと思います。つまり、認定こども園化により現場のスタッフが増えるというメリットは、今、現場のスタッフが足りていないということだと思います。園で起きる事件や事故をニュースで耳にしますが、スタッフが足りないことにより事故が起こらないよう不具合をどう埋めていくのかというところに注力いただき、スムーズに行うようお願いしたいと思います。

A I（人工知能）が進化し、今後、シンギュラリティという、人類の知能を超える転換期が来ると言われていますが、その先にはやはりコンピューターには出来ないことが重要になってくると思います。コンピューターに出来ないこととして、伊東というユニークな土地柄は立場的に大変有利になる時代がやってくると思います。その中で ICT を伊東でどうやって活用していくか、伊東でしかできないような独特なものを踏まえながら積極的に施策を考えていただきたいと思います。

委員 幼稚園にしても保育園にしても、少子化等、色々な現象が生じている状況下においては、やはり認定こども園という方向性なのだろうと思います。私は前任が伊豆市の天城中にいましたが、天城認定こども園と天城小と天城中の園校長会で年 4 回くらいの交流をして感じることは、具体的にどういう園を作っていくのかという難しい課題が色々あると思いますが、認定こども園を作っていくというのは、もう、そういう時代・方向になってきていると思います。

伊豆市修善寺の日向にも新しいこども園ができましたが、あの辺りの幼稚園・保育園はだいたい認定こども園でやっているのもっと色々な園の様子を見ながら、園の課題を上手く解消出来るような良い方向に持って行けたらいいと思います。

会長 後発で認定こども園を検討している伊東市としては、やるからには一番いい認定こども園にしたいと思っていますので、今ご紹介いただいた天城などもぜひ視察に行ければと考えております。ありがとうございました。

委員 幼稚園園児の減少が進む中、「集団」というところがすごく子供にとっては大事で、集団で質の高い保育であるとか、より良い環境の確保の面から考えると、認定

こども園を見据えなければいけない時期に来ているのかなと強く思います。

幼保連携型の認定こども園の教育・保育要領の解説書では、教育及び保育の目標として「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」であるとか、「幼児理解に基づいた評価」の実施、「特別な配慮を必要とする園児への指導の充実」そして「小学校への滑らかな接続」というところが大事にされており、幼稚園教育でもその点を大事にしています。保育所保育指針の中でも改訂の中で10の姿が織り込まれてきているので、幼稚園としては、これらの教育面のところは大事にしていきたいと強く願っております。

幼稚園は、保育園と共通する部分もあると思いますが、違いの部分もそれ以上にあると思いますので、やはり保育園と幼稚園がよく話し合ってお互いをよく知っていくことが大事だと感じています。伊東市を担う子どもたち一人一人を育てていくという共通の思いを持って、今後丁寧に話し合いを重ねながら進めていきたいと思っています。

副会長 保育園としては、認定こども園についての学習や検討を始めたところですので、全体的にまとまった意見というのはまだお出しすることができませんが、現場の意見や疑問や要望等をたくさん吸い上げられるように準備をしていきたいと思っています。

自治体の中には、検討や準備に時間をかけられなかったこども園では、子供たちの生活が始まってからしわ寄せがいつてしまったり、保護者にも不便な面が出てしまったり、職員は保育や事務等で負担が大きくなってしまい、離職率が高くなったという事例も聞いております。

そうならないように保育園と幼稚園、先ほど委員も言うておられたように、管轄が異なってそれぞれの歴史があって行ってきた保育・教育だと思いますので、幼保連携の形をとっていく場合は、綿密なすり合わせが必要だと思います。

まず、お互いを知ることですね。先ほど委員が、幼稚園と保育園の違いが詳しく分からないとおっしゃっていましたが、同じ子供たちが育っていく場ですが、中身としてはそれぞれ大事にしてきたことが違っている部分もありますので、交流や、会議、お話しを通じる中で、お互いをまず知っていくことから始めたいと思っています。

委員 私ども、静岡県に13の幼稚園を持っています、令和2年度の時点でそのうちの2つが認定こども園になりました。令和5年度には更に1つ認定こども園になり、当面は幼稚園が10、認定こども園が3という形になります。

認定こども園になってもやる内容は特に変わりませんので、経営のし易さという点で3園が認定こども園を選びましたが、10園は幼稚園のままでいたいということで残っています。経営し易いというのは、国等からの給付費が高いということです。認定こども園になって土曜日をやるようになると職員の勤務がシフト制になっ

ていく分、国からの給付費が高くなります。

幼稚園と認定こども園との大きな違いは開所時間が11時間になることです。土曜も開所するか否かは自治体の考え方によります。静岡市はやってくださいと言いますし、沼津市はやらなくてもいいと言います。ですから沼津のこども園は土曜日はやっていません。また、認定こども園として0歳からやってくださいという自治体もあれば、3歳からでもいいというところもあり、沼津市は3歳からのこども園でいいとのことで、実質、幼稚園のまま預かり保育をしているのと何ら変わらない状況です。

その他の違いとしては、1号の子は14時になると降園しますが、お母さんがパートタイムなどで働いている子は預かり保育を利用します。2号の子は夕方までそのまま保育があるので15時あたりのタイミングでおやつが出されます。これは保育所と同じです。一方、預かり保育の子は必ずおやつを出さなければならない訳ではないので、出たり出なかったりします。つまり、14時以降、1号で預かりを利用している子と2号の子が同じ部屋にいと、食べるおやつが異なってくる場合があります。例えば、蒲原のこども園では自園調理をしているので、2号の子に対しては調理室で作ったホットケーキを出しますが、1号の子はソフトせんべいなどの既製品を出すことがあると聞きました。

通園バスの利用にも違いがあります。沼津のこども園は今86名園児がいて、そのうち通園バスを利用している子は30名。56名は利用していません。通園バスを利用している子は1号の子だけです。2号の子は保護者が働いているので、バスが来る時間まで待ってられないのです。そして、利用している子も、一時預かりを利用する子は、朝だけ利用して、夕方は利用しません。県内の9園でバスを運行していますが、1日バスのために人を雇っておくわけにもいかず、朝と帰り2時間ずつ働いてくれる都合のいい人を探すのが大変で、外部委託により運営しています。

委員

ここまでの話を聞き、資料のデータを見れば、認定こども園に移行せざるを得ないというか、移行していく方向性なのかなという風を感じています。保護者や教職員の色々な意見を吸い上げて、早急かつ慎重に行う事業であると思いました。

今日の会議に参加し、認定こども園という言葉を知った市民の一人としては、認定こども園とはこういうものだという説明の場であったり、今日もメリット・デメリットについて色々なご意見があったと思うのですが、それらを共有する場というものを市の方で市民に向けて作られた方がいいのかなと思いました。その他にも、設置場所の問題であったり、お迎えに来られる保護者さんの駐車場の確保などを含めた敷地の問題もあると思いました。

我々も商工会議所青年部として色々な活動をしていく中で、子どもたちが伊東に残って欲しいという思いもあってビジネス体験塾などを行っていますが、伊東市に子供が残る魅力づくりには、民間企業もしっかり頑張っていかないと、就職先がな

いと子供達もなかなか戻りにくい状況だと思いますので、官民両方で頑張っていかなければならないと感じました。

委員 先ほど委員が発言された「教育と保育の件」について、以前、保育士として保育現場にいた立場から申し上げますと、保育園はやはり年齢幅が広いということと、保育時間が長いということで、どちらかという和生活習慣に力を入れることが多いです。でも特に3歳児から5歳児につきましては、就学に向けて指導計画だとか保育計画がありまして、そこは幼稚園とは変わらない。教育的なもの、学校入学を目指してきちんと保育をしていますので、書面で読むとなかなかご心配されたと思いますが、そこは安心していただきたいと思いました。

私普段は相談員として相談室にありますが、相談を受けたり、ケースワーカーが関わる家庭の中で、数は少ないのですが兄弟で入園先が保育園と幼稚園のばらばらのケースがあり、車を運転されていない場合は送迎が非常に大変だと聞きます。2年目になると、だいたい同じ園になることが多いようですが、最初の1年間は大変ご苦労されていると思います。認定こども園化で少しでも定員枠が広がって、そういうご家庭が少なくなれば、全くなくなれば大変ありがたいなと思いました。

会長 実は、兄弟で違う施設に入っているというのは何人かいらっしゃいます。0歳児保育をやっていない園がある中で、1歳になると地元の保育園に戻るけれど、0歳の時には他の園に行くというようなことがある。送迎が大変なご家庭があるということで、そういったことも含めてまた課題を出していきたいと思います。

委員 子供を育てるための要素の一つとして「関わり」ということが大切だということとは以前からも言われています。家族の中での関わり、友達同士での関わり、あるいは保育士や先生との関わり、地域での関わりなど、多くの関わりがあると思いますが、子供たちがその中で育っていくのではないかと最近強く感じているところです。

「適応指導教室なぎさ」と、私が行っている教育相談室が一緒になり、4月から伊東市の教育支援センターとなりました。このうち「なぎさ」は、何らかの理由によって学校に行けない小・中学生を対象に、そこで学習したり、陶芸教室や生け花、お茶、そしてカヌー教室、ボウリングなど色々な行事に参加しています。陶芸教室では、講師の他3人の助手に来ていただいて子供達を指導してしまして、その中に2歳のお子さんを連れて来られる方が、お子さんを教室で一緒に遊ばせているのですけれど、「なぎさ」に通う低学年のお子さんで、なかなかお母さんと離れられないお子さんがいらっしゃいまして、ある日、その小学校低学年の子が2歳のお子さんと数時間一緒に関わったことで、今までお母さんと離れられなかったその子が、2歳の子の面倒を見たりしているんです。たった数時間関わったことでこんなに変わるのかな、と先日強く感じました。

少子化によって園児の関わり合いが少なくなるという点を事務局が指摘していましたが、そういった関わりを多くすることによって子供が成長していくのではないのかな、と感じています。

会長 予定しておりました会議時刻に近づいてまいりましたので、そろそろまとめたいとは思っておりますけれども、他の皆さんの意見を聞いて、これだけは言いたいというようなご意見がありましたらお話しいただきたいと思います。

会長 もし今日言いそびれたことがあるようでしたらば、電話でもメールでも構いませんのでご意見があれば事務局の幼児教育課まで頂戴したいと思います。

それではまとめさせていただきたいと思います。公立保育園幼稚園、それぞれに課題があり、可能な範囲で認定こども園化を進めていくことはどうかということで、事務局から提案をさせて頂き、本日は幅広い見地から委員の皆様から色々なご意見を頂きました。本当にありがとうございました。事務局においては、本日頂いた皆さまからのご意見を踏まえて、今後の方向性について検討していただきたいと思いますし、また必要に応じて子ども子育て支援事業計画にも反映をしていただきたいと思いますというふうに思っております。

以上持ちまして、議題(3)「公立幼稚園保育園の再配置に向けた課題と解決策について」の審議を終わらせていただきます。

(4) その他

会長 議題(4)として、その他に移りたいと思います。事務局からありますか。

事務局 事務局からは特にありません。

会長 よろしいですか。それでは本日の議事進行については以上で終わりたいと思います。会議の進行についてご協力いただきありがとうございました。それでは進行を事務局に返します。

事務局 本日は長時間にわたるご審議ありがとうございました。委員の皆様から貴重なご意見を伺うことができ御礼を申し上げます。最後に事務連絡をさせていただきます。伊東市子ども子育て会議は年に2回の開催をしております。次回は本日の審議内容を検証した形で、再度今後の幼稚園保育園のあり方に関し、委員の皆様にご審議いただくことを考えておりますので、委員の本任期中の令和4年3月18日までに開催するよう再度調整を図らせていただきます。お忙しい中とは存じますが、ご協力の程宜しくお願い致します。以上をもちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会